

Just Now

「気づき Awareness」を 教育目標にする英語活動

下 薫 Julie Kaoru Shimo

(マジカルキッズ英語研究所代表／茨城大学非常勤講師)

1. 先生たちと考える小学校英語

現在私は3校の大学で小学校英語に関連する講座を受け持っている。受講生は中学、高校教師を志望する英語専科の学生だけでなく、幼稚園や小学校教師を目指す他専科の学生も多い。学生ボランティアとして小学校の英語活動を体験する人も年々増えているので、講座では具体例を出しながら小学校英語のメリット、デメリットを論じることができる。講座開始時の学生たちが出す活動案は、単語カードを使った反復練習やフルーツバスケットなどのゲームが目立つが、終盤の模擬授業では、国際理解を取り入れたり、他教科と連動させるなど、小学校ならではの英語活動を披露するようになる。

一方、現職の先生方への指導としては、茨城県内の小学校を中心に年間指導計画の作成や教師研修を手伝わせていただいている。このように未来そして現職の先生たちと共に小学校英語を研究しているが、講座や研修のはじめに受講者に行う質問は「何のために子どもに英語を教えるのか」である。この問いの答えは、1つ1つの英語活動の教育目標に表れる。活動を計画する際、子どもの年齢と興味関心を理解し、教育目標を設定することが大変重要になると思う。

2. 「目標」を立てる

幼児・児童の早い時期から外国語学習を開始する利点として、次の2つの壁が比較的容易に乗り越えられることが考えられる。

- 1) 言語音声の壁
- 2) 視野を狭める心の壁

子どもは小学校の英語活動を通して、日本語にはない未知の「音」の違いに気づく。また世界の国々の「文化や習慣」の違いにも気づくことができる。カリキュラムもこの「気づき awareness」をもとに「言語目標」と「国際理解目標」の2つの目標を立てて、学年に応じて段階を踏んだ学習計画を立てる必要がある。例えばテーマを設定する際、低学年は「自己に気づく self-awareness」、中学年は「他者に気づく awareness of others」、高学年は「世界に気づく global awareness」とし、具体的なコミュニケーション活動として「自分について英語で話す」→「友だちに興味を持ち質疑応答をする」→「世界の人や文化を調べて発表する」など、子どもの年齢に合わせて活動に変化をつけ、低学年から高学年まで一貫した学習計画を立てることができるだろう。

3. All About Me から All Around Me へ

ここで、実際に小学校で行われているコミュニケーション活動を紹介する。

(1) 低学年—自己に気づく self-awareness

低学年向けの All About Me (自分のことを話す) は単元計画の後半で既習の英会話表現を用いて、自分の思いや考えを伝える活動である。円を作り、カードやスケッチブック(写真1)に描いた自己紹介の絵を見せながら発表する。

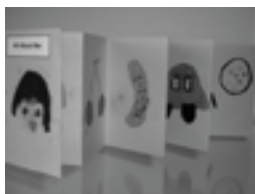
(発表例) My name is Lisa. I'm 8. I like melons.

I like pink. I love my family.

カードを作成する過程で自分の好き嫌いを確認し、友だちに英語で伝える。これにより自尊感情が深まり自己表現力も高まる。自尊感情を持った子ども

もは、情緒的にも安定し、他者を理解し受け入れることができると考えられる。

All About Me の発表で、グループやクラス全体で円になると、子どもは友だちとアイコンタクトをとるようになる(写真2)。それにより相手の表情や反応を見ながら話すというコミュニケーションの基本姿勢を作ることができる。英語の発表を聞いてもらうことで、子どもは



All About Me (写真1)
カードの例 (カードをジャバラ状につなぎ合わせたもの)



Circle Activity (写真2)

少しずつ英語に慣れ、自信を持つようになる。円になって座ると、誰もが円の中心から等間隔に位置し、また円の中央に立てば自らが中心的な存在にもなれる。円の中央におもちゃのマイクを置いて率先して発表させたり、マイクを順番に回して意識して大きな声で発表させるなど、円活動では積極的な発話を引き出す様々な工夫ができる。

(2) 中学年—他者に気づく awareness of others

Q&A (質疑応答) 活動は、相手の話を聞き、質問に答え、自分の感想や意見を言う会話のキャッチボールの練習である。月間テーマ



Q&A カード (写真3)
Q&A カードフィッシュの例

マに合わせて Q&A カード (写真3) を作成し集めていく。例えばリンゴの形をしたカードを毎月一人1枚ずつ作り、月間テーマに合わせて絵や単語を書き、リングに通して束にする。warm-up 時にペアになって、カードを見ながら次々と Q&A を行う。カードの保管は大きなりんごの木の絵にフックをつけてクラス全員分を掲示する。小学4年のクラスでは、「得意なこと」をテーマに can を使った Q&A が行われ、驚きや同意など、子どもの感想が自然に加えられた会話になっていた。

“What can you do?”

“I can sing ABC Song.” “I can, too.”

“I can snowboard.” “Wow!”

“I can swim 50 meters.” “That’s cool!”

(3) 高学年向け—世界に気づく global awareness

自分のことが表現できたら、テーマを町、国、世界へと広げていきたい。All About Me から All Around Me (自分の回りごと) へ。1つのテーマも学年ごとに広げていく事ができる。例えば「動物」であれば、身近にいる動物から、環境問題である絶滅危機にある動物まで、Pet & Farm Animals → Zoo Animals → Animals around the World → Endangered Animals と展開できる。世界地図を使った地図学習や「世界の食べ物、スポーツ、乗り物」など多文化理解を、社会科や調べ学習と連動させると、高学年の英語学習の動機付けにもなるだろう。

世界のことと平行して、日本についてもぜひ英語で紹介する機会を子どもたちに与えたい。岐阜市が使用している KIDS CROWN GIFU CITY (三省堂) に収録されている Things in Gifu City では、岐阜市のイラストマップを見ながら町の紹介を CD で聞くことができる。Q&A 形式の英文を聞きながら自分たちの町への理解を深め、調べ学習を通してオリジナルの英文で町を紹介することができるだろう。

4. 担任教師が作る「小学校英語」

小学校英語は小学生の言語習得の特徴や多文化に対する興味・関心を最大に考慮して、担任教師が中心となって行われる英語活動である。子ども一人ひとりの個性を理解する担任教師が計画し実施する英語活動は、英語という枠に留まらず、他教科連動、他学年との交流などヴァリエーションに富み、文字通り「小学校英語」という新しいジャンルを確立している。担任教師が試行錯誤の中、目の前の子どもたちのために計画し、実践した英語活動を拝見すると子どもに英語を教える真の答えが見えてくる。今後も先生方の実践を通して「何のために子どもに英語を教えるのか」を探っていきたい。